



10月10日は目の愛護デー

10月の視力検査結果

10月の視力検査結果は下表のとおりです。メガネ・コンタクトを使用していない人については「裸眼視力」を、メガネ・コンタクトを使用している人については「矯正視力」を測定しました。全体の48.8%がメガネ・コンタクトを使用していますが、最近、授業中にメガネをかけないという人が見られます。メガネ使用者の中には治療用のメガネの人もいますので、眼科医の指示を守って正しく使用しましょう。眼科での受診が必要と思われる生徒については、「結果のお知らせ」を渡しましたので早めに受診されますようお願いいたします。

裸眼視力 <small>ら がん し り ょ く</small>	1 年		2 年		3 年		合 計
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	
A (1.0 以上)	13人	16人	15人	20人	14人	28人	106人 (43.1%)
B (0.9~0.7)	2人	0人	1人	0人	0人	1人	4人 (1.6%)
C (0.6~0.3)	2人	1人	2人	1人	6人	3人	15人 (6.1%)
D (0.2 以下)	0人	0人	0人	1人	0人	0人	1人 (0.4%)
合 計	17人	17人	18人	22人	20人	32人	126人 (51.2%)

矯正視力 <small>きょうせい し り ょ く</small>	1 年		2 年		3 年		合 計
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	
A (1.0 以上)	12人	13人	12人	16人	11人	10人	74人 (30.1%)
B (0.9~0.7)	4人	3人	3人	8人	11人	10人	39人 (15.9%)
C (0.6~0.3)	1人	0人	1人	1人	1人	2人	6人 (2.4%)
D (0.2 以下)	1人	0人	0人	0人	0人	0人	1人 (0.4%)
合 計	18人	16人	16人	25人	23人	22人	120人 (48.8%)

視力と教室の座席について

視力が低下しているのに、また、メガネがあるのに、メガネをかけずに無理をして学習している人がいます。自分の視力と座席は合っているかを見て、どうしたらよいかを考えましょう！

裸眼視力	視力の状態及び教室の座席について
C (0.6~0.3)	座席によっては黒板の字が見えにくい場合があります。眼科で検査を受け、処方箋に基づいてメガネを作成し、授業中はかけるようにしましょう。
D (0.2 以下)	教室の最前列でも黒板の字がよく見えにくいいため、メガネが必要になります。眼科で検査を受け、医師の指示に従ってください。

【おうちの方へ】

新型コロナ・インフルエンザの罹患者が少しずつ増えてきています。感染症予防の基本「うがい・手洗い」をしっかりとって予防につとめてください。また、朝は何かと忙しいですが、具合が悪いときや前日の夜に発熱があったときは、必ず体温を測ってください。この時期は、新型コロナやインフルエンザ感染を疑って対応をしてくださると大変助かります。ご協力お願いします。

使い捨てコンタクトレンズの空ケースを集めます！



集める期間：11日(水)～20日(金)

教室においてある「回収ボトル」に入れてください。

*コンタクトを使用していない人は、家族の方の空ケースを持ってきてください。ちょっと面倒だなど思う人もいるかもしれませんが、皆さんのたくさんのご協力をお願いします！



使い捨てコンタクトレンズの空ケースは、ほぼすべての商品がポリプロピレンという素材で作られており、非常にリサイクルに適しています。そのため、コンタクトレンズ販売店であるアイシティでは、2010年より業界初の空ケース回収活動をスタートさせました。2010年～2012年まではアイシティ内のみの取り組みでしたが、2013年より様々な企業(961社)、学校(2,294校)自治体(51ヶ所)と活動しています。しかし、空ケースのリサイクル比率は未だ全体の2%程度にすぎません。

**【これまでの回収量と寄付金額】
累計(2023年3月末時点)**

空ケース 約5億4,400万個
寄付金額 1,211万7,095円

*リサイクルにより得られた対価の金額を公益財団法人日本アイバング教会へ寄付しました。



空ケースの再資源化による環境保全

ゴミとして燃やしてしまうのではなく、リサイクルを行うことでCO₂排出量を削減します。再資源化された安価な材料は、様々な製品に生まれ変わります。



障がい者の自立・就労支援

アイシティの障がい者部門「市川チャレンジオフィス」では店舗や眼科で回収された空ケースのアルミシールをはがすなど、リサイクルの支援業務を行っています。また、全国の社会福祉施設で作られた手作り小物を年間8万個買い取り、ご協力いただいたお客様へ、お礼としてアイシティ店舗にてプレゼントしています。この手作り小物は、地産地消をすることで、より地域社会に貢献していきたいと考えています。

▶市川チャレンジオフィスの作業風景



▲手作り小物 制作中の様子



日本アイバンク協会への寄付

空ケースをリサイクル業者に買い取っていただいた収益を全額日本アイバンク協会に寄付しています。アイバンクは角膜の病気による視力障害の方の視力回復のために、角膜移植を待つ方とドナーの架け橋の役目を果たしています。アイバンクへの献眼登録の普及活動や献眼希望者が亡くなった時に角膜の摘出医を手配する活動を行っています。



アイシティ eco プロジェクト冊子より

【宝達中学校回収活動の様子】2018年10月から活動に参加

- ・2019年3月:1,654個
- ・2020年1月:3,319個
- ・2021年7月:2,000個
- ・2022年3月:1,950個
- ・2023年2月:1,590個
- 累計 10,513個